日刊工業新聞　第３種郵便物認可

〝ラグビーの聖地〟でサッカー公式戦

23年ぶり

大阪府東大阪市に歴史的瞬間が訪れる―。モノづくりに携わる中小企業の集積で知られる同市の、もうひとつの顔が「ラグビーのまち」。東大阪市花園ラグビー場があるためだが、メインスタジアムの第1グラウンド（G）で19日開かれるのが23年ぶりのサッカーの公式戦。ラグビーが核になるが、今後は官民でスタジアムという魅力あるコンテンツを生かした、にぎわい創出が求められそうだ。

（編集委員・林武志）

「ラグビーの聖地」として知られる東大阪市花園ラグビー場でのサッカーの試合は23年ぶりとなる

「6・19」東大阪・花園 熱く

「たくさんの人に来て頂きたい」と力を込めるのは花園ラグビー場の第1―3Gを所有する東大阪市の野田義和市長だ。19日、第1Gでは日本フットボールリーグ（JFL）のFC大阪が鈴鹿ポイントゲッターズと戦う。鈴鹿には「カズ」の愛称で親しまれる55歳の三浦知良選手が所属する。「カズ選手が来る試合では各競技場で一定のお客さまが入っていることもあり、第1で開催して頂く」と野田市長は説明する。

FC大阪の本拠地は収容人数最大6000人超だが、最大2万6000人超を収容できる花園第1Gでの鈴鹿戦は1万人の集客が目標だ。FC大阪を運営するF．C．大阪（大阪府東大阪市）の近藤祐輔社長は「サッカーはまちを盛り上げるツールの一つ」と話す。

東大阪市花園ラグビー場（所在地：大阪府東大阪市）	ＦＣ大阪（ホームタウン：大阪府東大阪市）
開場　1929年	創設　1996年
2015年に所有者が近畿日本鉄道から東大阪市に譲渡された。「ラグビーワールドカップ（W杯）2019」では４試合を実施。冬には全国高校ラグビー大会の会場となる「ラグビーの聖地」として、親しまれている	日本フットボールリーグ（ＪＦＬ）所属でＪリーグ入りを目指している。ホームスタジアムは大阪府営服部緑地陸上競技場（大阪府豊中市）と花園ラグビー場第２グラウンド。20年にＪ３クラブライセンスを取得している

東大阪市とＦＣ大阪のＨＰなどを基に作成

ＦＣ大阪、カズ選手の鈴鹿と対戦

東大阪市はラグビー場を含む花園の公園エリアについて公募設置管理制度により、2020年10月から40年3月末までの期間、花園の管理運営者にFC大阪を含む3者で構成される共同体を選定している。花園ラグビー場の所有は東大阪市だが、スタジアム運営にも携わるFC大阪にとってはチームの認知度を高める絶好機。花園第1Gとカズ選手の組み合わせとなる「6・19」は、単にJFLリーグ戦の1試合に留まらない大きな節目となる。

5月末に東大阪市と包括連携協定を結んだ明治安田生命保険。J1・J2・J3の全リーグカテゴリーのタイトルパートナーとしてJリーグを支えるだけに東大阪市が管轄地域の大阪南支社が独自にFC大阪を応援する。「6・19」も「計1000人近くの職員たちが観戦予定で、試合を盛り上げたい」（田辺義之支社長）考えだ。

地域活性化へ官民連携

花園で高校ラグビー決勝を戦った経験を持ち、プロラグビーコーチでもある人材育成スタートアップ、Work Life Brand（大阪府茨木市）の二ノ丸友幸代表は「ラグビーに携わる身としても花園への注目は歓迎」と話す。一方、第1Gでのラグビーの試合が年100日未満に留まる現状を踏まえ、「芝の育成もあるが、ラグビーで使われない時に有効活用すべきだ」と指摘する。

野田市長は「ラグビー、サッカーに限らず、とにかく花園に人を集めたい。ただ、あくまでもラグビー場なので、使用は『ラグビーファースト』でやっていきたい」と話す。

「強くなることが東大阪の活性化につながる」と近藤社長が言うようにFC大阪が目指すJリーグ（J3）昇格は、花園第1Gを使う頻度を増やす可能性が膨らむ。「6・19」はクラブの今後を占う試金石でもある。

地域振興、今季最大のヤマ場

F．C．大阪社長　近藤 祐輔 氏

J昇格を目指すFC大阪。クラブを運営するF．C．大阪のトップが元選手で、21年に就いた近藤祐輔社長（35）だ。東大阪市での地域振興策や、間近に控える花園第1Gでの「6・19」にかける思いなどを聞いた。

―地域振興にはどう取り組まれますか。

「サッカークラブは強くなり、カテゴリーを上げていくことが先決。一方で強化とは別に地域貢献の役割がある。地域のプレミアム商品券のデジタル化など、スタジアム以外でも使える『地域デジタル変革（DX）』に向けた取り組みを進めている。まず地域振興ありきで、そこにサッカーが加わる形が理想。サッカーを介して取り組みを周知させることは市民の方にとっても分かりやすいはずだ」

―「ラグビーのまち」の東大阪でサッカーは根付きますか。

「サッカーをやる人口は多い実感がある。地元でJチームがあれば憧れる子どもが増えてくるのではないか。サッカー、ラグビーに限らず、花園第1Gでプレーしたいという子どもたちは多い。（ガンバ大阪、セレッソ大阪の）J1所属2チームの商圏でない地域の特徴を生かしたい」

―カズ選手を擁する鈴鹿戦に向けては。

「大阪府と地域活性化など包括連携協定を18年に結んだが、府と大阪市による万博推進局も来場頂き、25年の大阪・関西万博に向けたPRにも取り組む計画。歴史的瞬間であるのは間違いなく、クラブとしても挑戦。多くの方々に観戦してほしい。勝利が一番だが、今季最大のヤマ場だ」

裏

賞

催 7

ロセス「トップゼクロムPLUS」は、環境負荷

つずかな色変化で方向転換

に気づいた。通常エッチングによる色変化は起こ

ライフサイエンスのマッチングイベント